

平成 28 年国臨協関信支部地区代表者会議議事録（要旨）

日時：平成 29 年 1 月 14 日（土）13：30～17：00

場所：国立がん研究センター中央病院 6F 臨床検査部 カンファレンスルーム

出席

国臨協関信支部峰岸正明支部長、岩崎康治副支部長、吉田茂久副支部長、小沼進吉事務局長、齋藤友永理事、椎名将昭理事、竹内智也理事、中谷穂理事、長島恵子理事、柳進也理事、山崎直樹理事、若林弘理事、林亮相談役

欠席

真鍋義弘理事

各地区会代表

茨城地区会：梶原弘通事務局長、栃木地区会：南雲功会長、埼玉地区会：山田晶会長、千葉地区会：桑村良隆会長、東京地区会：久高果一会長、東京・山梨地区会：土井誠一会長、神奈川地区会：金子勇事務局長、新潟地区会：山崎正明会長、長野地区会：齋藤美穂子会長

1. 開会の挨拶（岩崎副支部長）

2. 支部長挨拶

皆様、本日はお忙しいところ遠方よりお越し頂き、また日頃より国臨協関信支部へのご理解ご支援大変ありがとうございます。そして、今年もどうぞよろしくお願いいたします。本日は年に 1 度の地区代表者会議となります。支部執行部と地区会代表者の方々から忌憚の無い意見を出していただき、活発な討議を行って行きたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

3. 平成 28 年度関信支部役員・地区代表者自己紹介

4. 関信支部経過報告

1) 事務局

本年度総会員数は前年度と比較して 23 名増の 619 名となった。国立国際医療研究センター病院での採用者が多かった事、非常勤職員だった方々が職員となった事などが増員の主な理由である。

関信支部各地区会との連携、文化活動、諸会議の開催についての報告を行った。

2) 学術部

国臨協関信支部主催の研修会を 3 回開催した。第 44 回国臨協関信支部学会では、昨年

に引き続き部門分科会の形式で輸血検査を主題に開催した。また、初めての試みとして新潟地区会研修会にルーチンアドバイザーを派遣し超音波検査についての研修会を行った。

今後の予定としては、症例検討会（内容：RCPC）を予定している。

3) 広報部

国臨協関信支部ニュースは平成 29 年 1 月までに紙媒体として 3 回、PDF 版（人事異動：平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 4 月 1 日）を 1 回発行した。紙媒体の内容としては、関信支部定期総会、支部主催研修会、関信支部学会、国立病院総合医学会など支部活動関連記事と共に、地区会だより、国立病院機構関信グループ研修会などの情報を掲載した。

4) ホームページ

一般用、会員用共に随時更新し常に新しい情報を提供できるように努めた。

5. 各地区会経過報告

各地区会代表者より組織状況、会議（理事会・総会）、学術（研修会）、広報（会報誌の発行等）、文化活動（レクリエーション等）の報告が行われた。

6. 各地区会提出議題・関信支部提出議題

1) 本部、技師長協議会等、事業関連

Q：認定微生物検査技師以外の各医療認定資格の手当拡充の要望

A：関信支部のみで具体的な行動を取るのは困難であり、全国の施設と歩調を合わせることが必要。要望については国臨協本部と技師長協議会とで作成している要望書へ盛り込んでいく事になる。

Q：臨床検査技師の育成について

A：一般技師を対象とした研修は、専門職と支部の方で個人の意識改革を目的としたボトムアップ研修を開催した。主任技師を対象とした管理者育成を目的とした研修は、専門職と技師長協議会の方で主任技師育成研修を開催した。管理者研修については研修も必要であるが、各職場長が日頃より管理者としての心得を部下職員に教育することも重要と考える。

2) 研修会、支部学会関連

Q：各種認定試験対策及び糖尿病療養指導士を目指す方の為のセミナー開催をお願いしたい。

A：支部主催研修会は年間 3～4 回を予定しており、その時節柄にあった内容を計画して開催している。また、今後も会員の意見や要望を元に企画検討を行っている。

Q：学術論文化の推進

A：支部の学会賞に、論文化することといった規程を盛り込むのは現実的では無い。
論文化する事が可能な演題を見つけ、RA が指導して論文につなげていく方法もある。
また、投稿雑誌については支部ニュースを学会誌にする方法も考えられる。

Q：研修会内容の動画配信

A：講師の了承が得られた研修会については DVD の撮影を行っているので、必要に応じて貸し出しを行っている。(昨年の 4 月以降の研修会より)

Q：ポスター関連

A：ポスターの大きさについては B0 サイズまたは各施設のプリンターの最大サイズまでの大きさとする。ポスター賞を 1 位以外にも与えるかについては今後検討を行う。
採点については各地区から 3 名の採点者を推薦し、その方々で採点を行い順位を決めている。
採点基準については支部で改めて検討を行う。

3) 助成金関連

Q：地区会助成金について、地区会員数を考慮した金額に変更することは検討しているか。

A：現在 3 つの案が考えられる。

①：現状維持。

②：地区会助成金を廃止し、地区会主催の研修会費用・講師料をその都度支部に請求する。支部では内容を精査のうえ、支給額を決めるといった方法も考えられる。

③：地区会の規模によって助成金に差をつける。

今後の地区会助成金の在り方を、各地区会に意見を持ち帰り、相談をして頂きたい。

4) 役員関連

Q：国臨協本部、支部、技師長会、地区会などがあり、各協議会の活動内容が会員に周知されていない、また各協議会の事業が広がり過ぎている様に思われるのでスリム化等は検討しているのか。

A：各協議会の事業内容を、会員に説明するのは職場長の役割である。支部としては今後支部長会議（本部、支部事業の説明）の報告は HP に掲載するとともに施設連絡者に報告するので、施設連絡者は各会員に伝達して頂きたい。

本部、技師長協議会とそれぞれの役割に基づいて事業を定めている。継続事業となっているものが多いために今の状況になっている。支部の事業については学術、情報発信、会員相互の交流の 3 本柱は変わらない。

5) 専門職関連

Q：産休代替や非常勤等、人材派遣のような登録業務を行って頂けないか。

A：現状では人材バンクの様な業務を行うのは困難である。また、全国的に代替職員の確保は難しい問題となっている。各施設での対応をお願いしたい。相談については随時受け付けている。

Q：定年退職者の再雇用における勤務状況等について情報提供をしてほしい。

A：個人情報の提供は難しいが、退職者数などの全体の割合をお教えする事は可能である。機構本部としての考えは、各施設が再雇用制度を進めて行く方向へ向かってほしいということである。

6) 関信支部提出議題

①：学会時、メーカーによるコマーシャル演題の募集について。

支部学会における企業寄付等が可能であるかは機構本部に確認し、規程に合えば問題ない。

②：学会賞選考委員の見直しについて

現状では学会賞選考時、RA は抄録選考審査を行うとなっているが、今後は選考メンバーに RA も複数名参加するようにしていきたい。

③：RA 委員会の学術委員会への移行

RA の活動内容の拡大のため、学術委員会への移行を行いたい。

主な事業としては次の如くである。

- ・学会、研修会の企画・立案
- ・技術指導（RA の派遣業務）
- ・学会賞の審査
- ・支部ニュース等への学術援助等

RA 委員会に移行のため今後は WG を立ち上げ進めていきたい。

④：支部執行部の活性化

役員は支部ニュースで公募し、役員推薦委員会で推薦する形を取っているが形骸化している。役員推薦委員会が機能した選出を行いたい。

支部ニュースによる公募だけでなく、役員推薦委員会から各職場長宛にメールで役員募集を行っていきたい。